

1 学校教育目標	
【校訓】	礼節を重んず 勤労を尚ぶ 誠実に生く
【教育目標】	自ら学び考え、未来を創造する魅力ある人材の育成
【教育スローガン】	GO!前へ! ~ 夢実現へチャレンジ ~
【教育方針】	<p>(1) 地域の誇れる生徒の育成</p> <p>ア 端正な制服と礼儀正しい生徒(礼節)</p> <p>イ 目的達成に向けて努力する生徒(勤労)</p> <p>ウ 自律心を持ち誠実に行動する生徒(誠実)</p> <p>エ 命を大切にし、自他を認め、思いやりのある生徒</p> <p>オ 部活動・生徒会・学校農業クラブ・学校家庭クラブ活動に積極的に取り組む生徒</p> <p>カ ボランティアや地域行事等へ積極的に参加し地域貢献ができる生徒</p> <p>(2) 地域に誇れる教職員への支援</p> <p>ア スクール・ミッション具現化のための協働の教育現場づくりの推進</p> <p>イ 「八農(分校)教育」の特色を生かした「感動教育」</p> <p>ウ 夢や希望を実現できる学習指導、進路指導及び生徒指導の構築と取組の推進</p> <p>エ ICTを活用した個別最適な学習体制の構築と取組の推進</p> <p>オ 特別な支援を要する生徒の全教職員の共通理解と情報共有に努め、保護者等や中学校、関係機関との連携を推進</p> <p>カ 職員研修の充実を図り、教職員としての資質(専門性、指導力、人権)向上を推進</p> <p>(3) 地域に誇れる学校づくり</p> <p>ア 地域社会、地域産業、地域の教育に必要とされる魅力ある教育の推進</p> <p>イ 「八農(分校)教育」の積極的な情報発信</p> <p>ウ 多様な世代や地域等との教育交流の継続と深化</p> <p>エ 積極的なボランティアや地元行事への参加による地域社会への貢献</p> <p>オ 安全・安心な差別やいじめのない学校づくり</p> <p>カ 清掃・整備の行き届いた教育環境づくり</p> <p>キ グローバル教育への取組</p>

2 本年度の重点目標	
<p>(1) 教職員相互の共通理解による教育活動の活性化を推進</p> <p>(2) 生徒にとって、安全で安心できる環境の学校づくり</p> <p>(3) 八農(分校)教育全域を通してのキャリア教育・人権教育の推進と進路実現</p> <p>(4) 特別な支援を要する生徒への全教職員共通理解による取組の推進</p> <p>(5) 地域の資源や人材を最大限に活用した教育活動と教職員研修の推進</p> <p>(6) リスク管理と危機管理の徹底と諸課題の解決の推移</p> <p>(7) 継続的・効果的な情報発信と生徒募集の取組の推進</p> <p>(8) グローバル人材の育成</p> <p>(9) 本校と分校の人的・物的資源の有効活用による教育活動の充実</p>	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理	・教育目標及び重点目標の共通理解と生徒・保護者及び地域への周知	・教職員の理解度100% ・生徒・保護者の理解度90%以上	・校内外掲示、職員会議、保護者会等での周知を行う。HP、学校運営協議会等の活用の継続。	B	・学校評価アンケートでは、教職員の理解度100%(昨年度100%)、生徒の理解度82.9%(同87.9%)、保護者の理解度85.7%(同83.9%)であった。十分に理解され周知されているが更

						に努めていく。
生徒募集	<ul style="list-style-type: none"> ・募集定員の確保に向けての取組み ・取組みの見直し、創意工夫 ・組織的・効率的な取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度入学者20人以上を目指し取組む ・体験入学の内容の工夫 ・具体的な魅力発信方法の工夫 ・組織横断的な「チーム」による取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学参加者増加 ・地域や小中学校との交流連携事業推進 ・中学生の保護者・教員への魅力発信 ・学校HPの充実 ・情報発信の創意工夫 ・担当者による中学校定期訪問を実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・7月と10月の2回、体験入学を実施した。第1回の参加者は、中学生35名・保護者31名。第2回は中学生14名・保護者11名。 ・中学校との顔の見える関係づくりを促進するため、全職員で42校を定期的に訪問し、本校の魅力を直接発信する機会とした。今年度は新たに説明を求める中学校も増加した。 	
学校への適応指導の強化継続	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自身の目標をもって学校生活を送り、本校において自己実現を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学校に適應できる環境づくり ・校内における情報の共有と共通理解 ・中途退学及び転学者を減らす対策の実施 ・個別支援の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報の系統化 ・気付きと情報の共有 ・適應できる環境作り個別対応の強化と継続 ・中学校やSC、SSWとの連携 ・特別支援Co、教育相談員との能動的な連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒面談や家庭訪問、保護者との連携を丁寧に行い、教職員間で日常的に生徒情報を共有することで、より充実した支援と指導へとつなげることができた。 ・心配される生徒については、三者面談やSCによる面談を継続的に実施した。また、SSWや関係福祉機関と連携し、ケース会議を行うなど、課題解決に向けた支援に取り組んだ。 ・校内における支援体制の更なる充実と強化を図っていく。 	
魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の魅力や特色を発信できたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学参加者確保 ・次年度入学者20人以上 ・アンケートの指数が平均90%以上 ・学校HP、行政広報からの情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校パンフレットのリニューアル ・中学校等訪問（行事や体験入学案内を含め定期的な訪問） ・地域や地元小中学校との交流、連携 ・学校運営協議会の活用 ・HPの毎日更新を目標 ・支所だよりの活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校パンフレットに加え、中学校の各クラス向け掲示資料を作成して定期訪問を行い、特色ある行事の紹介やHPへのアクセス案内、進路学習の補助資料としての活用を依頼した。 ・泉小中学校との交流学習を実施し、本校の専門的な学習内容を紹介・体験してもらい、参加者から高い評価を得た。 ・HPの毎日情報更新の成果として9カ月のアクセス数が約726,000回（1日平均2,700回以上） ・支所だよりに学校 	

						<p>行事の様子や来校を促す内容を掲載いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 和小路交差点に顕彰看板を2枚掲示した。
	業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選及び内容整理、見直し 業務内容の見直し推進 業務の負担感軽減と効率化への工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選及び内容整理、見直し ICT活用 各教職員の意識改革 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選等 配布資料の削減 ICTの活用 データ共有化の推進と整理 本校資源の有効活用と共有 	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事の精選は今後も検討を重ねていきたい。 Googleチャットの導入により、資料のペーパーレス、業務の効率化が進展した。 専門教科職員同士の連携が緊密になり、本校の教育資源を効果的に活用する取組が進展した。
	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化と教職員の意識改革を通じて、教育活動の質的向上を継続的に図る 	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善に向けた意識改革と目標設定 時間外勤務時間の昨年度比減少を目指す 出張等の削減 業務の分担の調節 	<ul style="list-style-type: none"> 現状と課題確認 定時退勤日の設定 校外での会議や研修参加の精選 代休、特休の100%消化、取得 年間15日の年休取得 	A	<ul style="list-style-type: none"> 12月までの全職員平均時間外勤務は昨年度の28.35時間から今年度は18.54時間へと大幅に減少した。定時退勤日の設定に加え、業務効率化への意識が浸透し、ICTやAI活用も進んだことが要因である。一方、支援を要する生徒や保護者対応は増加しているが、全職員が協力して組織的に取り組んでいることが成果に繋がっている。 12月までの全職員の年休取得平均は11.0日となり、計画的な休暇取得が進んでいる。併せて特別休暇の活用も促進され、働きやすい職場環境づくりが着実に進展している。
学力向上	学習習慣と基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 学習への意欲、継続性の向上を目指す 学習環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の改善 確かな学力の育成 個に応じた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、教職員によるICTの効果的な活用 高校生のための学びの基礎診断の活用 教室の整理整頓、設備や備品の管理を行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、教職員ともに積極的にICTを活用することができている。 教室、校内の設備や備品の管理も徹底していただき、学習に集中して臨める環境が整っている。
	新学習評価規程の精度の向上	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準の明確化と共有 教職員の評価リテラシーの向上 	<ul style="list-style-type: none"> シラバスの作成と提示 形成的評価やパフォーマンス評価等のさまざ 	<ul style="list-style-type: none"> 学校独自システムの活用 職員会議や職員研修の実施 他校の研究会や研修会への 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内業務の忙しさもあり、他校の研究会や研修会参加は少なかった。校内においても、評価等の研修を実施

			まな評価方法を実施	参加		していきたい。
	教育的ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教育的ニーズへの新たな対応 ・ICTなどの学習ツールを活用した対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールミッションの活用 ・学校設定科目の見直しと継続 ・ICTの活用と工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門機関との連携強化（SC、SSW等） ・学校設定科目とその学習内容についての見直しを行う ・ICTの具体的活用を全職員で取組む 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SC、SSW等との連携は強化することができた。 ・学校設定科目とその内容についての見直しは継続していきたい。 ・さらなるICTの活用を促進していきたい。
キャリア教育（進路指導）	進路活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・より明確な進路目標の確立を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路個別面談（二者面談、三者面談）の実施 ・具体的な進路先の設定を支援し、内定100%を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路資料提供面談等による指導 ・キャリアサポーター活用による進路支援 ・進路室の開放及びClassroomでの情報の提供 ・進学・就職ガイダンスの活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や個別企業訪問を通じて、よりきめ細かな進路支援が行えている。これらの取り組みを今後も積極的に発信し、学校の強みとしてアピールしていきたい。 ・学年面談などへ参画し、より詳細な進路情報を提供していく。また、生徒に対してはICT機器を活用した啓発活動を進め、進路意識の向上に繋げていきたい。
	系統的キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的自立に必要な能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の時間やインターンシップ、各学年に応じた進路ガイダンス、企業見学、企業交流、社会人セミナー等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業教育、企業等外部機関との連携（オンラインを含む） ・インターンシップ、進路説明会等の実施 ・ハローワーク雇用整備協会等の事業を積極的に活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップから進路希望へつながった人数は昨年度を上回った。引き続き早期の希望調査と企業との事前打合せを徹底し、マッチングの確実性を高めて内容の充実を図る。 ・緑の時間などを活用し、職業意識を高めるための自己理解の取組をさらに進めていきたい。生徒一人一人が自身の将来像を描けるよう、計画的な支援を充実させていく。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・校則の遵守 ・道徳及び情報モラルの啓発 ・基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、時間、整容面行動面、言葉遣いを整える意識の向上 ・校内外での社会規範の習得、道徳心の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事、全校集会をとおした全体指導、クラス別指導 ・課題を抱える生徒への継続的な個別指導を行う 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での問題行動（からかい・いじめ・暴力・喫煙）が昨年より17件増加しており、深刻に受け止めている。今後もモラル向上に向けた指導と啓発をこれまで以上に徹底し、再発防止に強く取り組んでいく。
	交通安全教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導や命を大切する心 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事（泉分校交通安 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な交通指導の成果として、交

	底	<ul style="list-style-type: none"> の育成 ・自転車、原付の点検実施 ・通学生の安全運転意識の向上 ・ヘルメット着用の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な全体指導 ・個別指導の実施 ・毎月の自転車及び原付の整備点検の実施 ・原付安全講習会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 全の日等)、全校集会をと おした定期的な全体指導 ・長期休業中の事前指導 ・学校生活の中で継続的な声かけ指導や見守り等を行う 		<ul style="list-style-type: none"> 通事故の発生は1件に抑えられている。今後も毎月の指導と啓発を継続し、生徒の安全確保に努めていきたい。 ・ヘルメットの着用に関しては、ほぼ9割の生徒が順守できている。
	自治活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校農業クラブや生徒会等において生徒が自律的・主体的な計画を行い運営する 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の生徒アンケートで「学校行事が充実していた」の回答70%以上 ・地域活動への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を明確にした学校行事を計画する ・より良い学校を築いていく自律的精神を育む ・活動の振り返りを行い、成果を自信にして次の活動への活力を持たせる 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員が学校行事を主導し、役員以外の生徒とも意見交換しながら計画的に進めていた。生徒アンケートでは「学校行事が充実していた」が目標70%を大きく上回り、85%以上の高評価となった。 ・農業クラブを中心に対外的な活動が増加し、地域と連携した実践を通して外部からも高い評価を受けた。今後も地域と協働し生徒の学びを更に広げていきたい。
人権教育の推進	人権意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな差別や偏見の存在を認識し、それを許さない態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の意識を高めるための言語環境を整える ・人権教育LHRと人権教育講演会の充実 ・職員研修の振り返りの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の多様性の尊重と職員研修における検証 ・人権教育推進委員会で人権教育の在り方について共通認識を図る 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に人権教育LHRを実施し、生徒の人権意識向上に努めたが、暴言等で特別指導を受けた生徒もあり、心に残る教育が十分に行えていなかった点は課題である。 ・2学期は「ハンセン病」をテーマに、職員研修と生徒の人権LHRを合同で実施し、外部講師による講演を通して理解を深める機会を設けた。
	推進体制の確立と研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の実践的理解度の向上 ・教職員の人権意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員、生徒の学校評価アンケートにおいて、人権教育の取り組みが「できている」の回答90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員が1回以上は校外研修へ参加する ・毎年1回の人権レポートを提出する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全員が研修に参加しており、意欲的・積極的に取り組める体制は十分に整っている。今後もこの姿勢を維持し、研修の質の向上に努めたい。 ・人権レポート研修では、多忙な中、

						全ての教職員に提出頂き、充実した研修ができた。
	計画的な人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 熊本県人権教育・啓発基本計画を踏まえた、泉分校の人権教育の計画や人権関係文書等を全教職員へ周知し泉分校の方向性を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の指導方法等の在り方について「人権教育取り組みの方向」（県教委）の実践に取組む 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進委員会において年間指導計画の検証 昨年度の指導計画を見直し、泉分校の実態に即した人権教育の実践に取り組む 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して学年ごとにテーマを設定し計画的に人権教育を実施できた。今後も本校の実態に応じた内容を精選し、より充実した取組となるようPDCAサイクルを確立していきたい。
	命を大切にすることを育む指導	<ul style="list-style-type: none"> すべての教職員が連携し、生徒一人ひとりの課題に寄り添いながら、自他の生命の尊さと生きることの素晴らしさを共に学び、深める指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科・科目において人権教育の視野に立った指導を意識し教育活動全般を通して命を大切にすることを育む取組を行う 言語活動の強化 	<ul style="list-style-type: none"> お互いを尊重し合える態度を育成する指導の実現を目指して各教科、各科目の連携・情報共有を充実させ、課題には全職員で取り組む 	B	<ul style="list-style-type: none"> 命に不安を抱える生徒への対応が生じた際には、人権教育主任を中心に心を育む指導が行えるよう、今後も職員間の情報共有を密にし、連携を強めて取り組んでいきたい。
いじめの防止等	いじめ問題への取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> いじめ被害防止の取組みを充実させる 互いに尊重し合える人間関係の構築ができるようにする 生徒が相談しやすい環境の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員のいじめに対する認識を高める校内研修を計画的に実施 いじめが背景に疑われる重大事態認知に努め安全で安心な学校づくりを目指す いじめの問題を自分の問題及び自分たちの問題として考えることができる 日頃から悩みを抱えたときに相談できる関係性を構築する 他者の気持ちの重要性や多様なコミュニケーションを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する組織体制強化への職員研修を実施 全校生徒に年3回の心のアンケートの実施 心のアンケート実施後に全員と個人面談を実施 心のきずなを深める標語作成を実施 クラスごとに心のきずなを深める行動計画を策定 教職員間で生徒情報を日常的に共有 学期始めに教育相談期間を設定 巡回指導の実施 全校集会を実施 	C	<ul style="list-style-type: none"> 1年生と3年生はお互いの距離感を保ちながら落ち着いて生活できている。一方、2年生では4月当初からいじめ案件が8件続いており、より良い人間関係を築くために、心のきずなを深める具体的な取組を強化する必要がある。 昼休みや放課後の時間を利用して日頃から様々な悩みを抱えた生徒が話しやすい環境は整えており、担任以外の複数の先生にも定期的に相談している。 他者の気持ちを理解することが苦手な生徒もおり、学校行事を通して適切なコミュニケーションの取り方を学ばせる支援が必要である。今後も場面に応じた関わりを促し、人間関係づくりを丁寧に指導していく。
地域連携(コミュニ	地域と防災連携体	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の臨時避難所設営に 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を行う中で教 	<ul style="list-style-type: none"> 泉支所・消防・地域住民と 	B	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害避難確保計

ティ・スクール など)	制の整備	際し、臨時避難所マニュアルの内容と役割が適切に理解・共有されている	職員の危機管理マニュアル確認 ・地域の避難訓練等に参加	の緊密な協力体制の確立 ・緊急時用の防災用品の点検 ・補充		画作成にあたり、泉支所との協力体制の確認を実施した。 ・緊急時用品等は、年間2回の賞味期限確認や点検を実施した。
	泉町の地域住民と交流を図り地域理解に努める	・泉町の行事等に生徒及び教職員が参加する	・生徒会や学校農業クラブ等生徒が主体性を持って行事に参加する	・お茶まつり、町民文化祭及び泉まちづくり協議会主催のイベント、ボランティア活動への積極的参加	B	・地域行事やボランティアに積極的に参加し、交流が深まり学校の魅力発信と地域との連携が一層進んだ。
専門教育	専門教育の充実	・生徒の授業満足度 ・研究活動の成果	・授業満足80%以上 ・課題研究の報告会を実施	・記録簿等をとおして達成度の確認を行う	B	・校外研修や先進地視察を通して質の高い専門教育を実施し、満足度は91.4%と高く目標を達成した。 ・課題研究報告会も実施予定
	学校農業クラブ活動の充実	・各種大会への積極的取組および成績	・各種県大会上位入賞	・各種競技会代表者への指導体制の確立および指導期間・時間の確保を専門部で行う	A	・専門部で指導体制と指導時間を整えた結果、農業鑑定競技大会（生活分野）で全国大会優秀賞を受賞する成果が得られた。
	地域との交流活動の充実	・地域との交流活動を積極的にできたか	・3年次、生徒アンケート調査において「できている」の回答80%以上	・生徒が地域や外部との連携活動に主体的に関われるよう支援・助言を行う	B	・部活動や課題研究ボランティアを通して交流活動を充実させ、3年生アンケートでは86.6%の評価を得た。
	地域に向けた専門教育活動の情報発信を強化する	・専門教科の学習内容が地域に発信できたか	・アンケート調査において「できている」の回答70%以上	・町民文化祭ややつしる学びフェスタ等において、研究成果の発表や作品展示、体験型の活動を通じて広報活動を展開する	B	・新聞・テレビ等での報道露出や地域交流イベントへの参加を進め、アンケートでは71.4%の評価を得た。
特別支援教育	特別支援教育の理解支援体制の確立	・特別支援教育及び生徒に対する教職員の理解や実践的指導力の向上	・学期毎の校内研修の実施 ・校外研修会への参加 ・職員会議等での情報提供	・ニーズに応じた校内研修の充実 ・校外研修会への積極的な参加呼びかけ ・適宜Coによる助言の実施 ・すぐーる等を使った保護者への情報提供	B	・専門用語研修や巡回指導を実施し、校内研修を充実させた。今後さらに質を高めていきたい。 ・現状に適した助言を行うため、生徒指導と教育相談の連携をさらに進めていく。
		・支援が必要な生徒に関する教職員間の共通理解と個々に応じた柔軟な支援	・支援が必要な生徒に関する情報の整理、情報共有 ・特別支援教	・全教職員による情報の共有（会議や普段の会話等） ・個別の教育支援計画等を活	B	・ケース会議は適宜実施でき、今後も進路指導と連携した会議を充実させたい。 ・移行支援と意思確認は、学年と協力

			育推進委員会を中心とした支援体制の確立 ・ケース会議の実施 ・巡回相談の活用	用した支援の方向性の確認 ・コーディネーターによるケース会議の企画・実施		して円滑に進めることができた。 ・生徒の情報共有については、今後も継続して充実させていきたい。
環境教育	教育環境の整備及び省エネ意識の向上	・日常点検と整備の徹底 ・省エネに対する意識の高揚	・教職員、生徒、保護者の「掃除や整理整頓ができています」の回答が80%以上 ・学校全体の電気使用量を前年度比0.5%削減	・校内美化活動やごみの分別の推進 ・落ち着いた学校環境の維持 ・定期的な整備点検の実施 ・定期的に電気使用量を提示し、保健委員会を中心にクラスへ節電への呼びかけを行う。	B	・掃除や整理整頓は教職員・生徒・保護者の80%以上が「できている」と回答し、今後も定着を図りたい。 ・電気使用量は前年より7%増加した。冷暖房の利用時期が早まったことも使用量増加の一因と考えられる。
保健管理	心身の健康の保持増進	・健康診断後の受診率の向上 ・SCと連携した健康相談活動の充実	・歯科受診率60%以上 ・眼科受診率40%以上 ・SC面談を通して下宿生や欠席・欠課増加傾向の生徒の学校生活改善の支援を行う。	・未受診者に対する資料を用いた定期的な個別指導の実施 ・対象生徒と対話を繰り返しSC面談へとつなげる。 ・SCによる職員研修の実施	A	・歯科受診率70% ・眼科受診率63% ・1・2年生全員をはじめ、下宿生や欠席・欠課が増加傾向にある生徒との面談を実施できた。継続的な面談を希望する生徒も複数見られた。 ・SC職員研修でカウンセリングマインドを学び実践に活かしている。

4 学校関係者評価

- (1) 生徒一人ひとりの個性を尊重した学校運営を行い、学科の特色を生かした教育活動を展開している。少人数を生かした指導体制が機能し、生徒が安心して学べる環境が整っている。教育方針が現場で具体化されている点は高く評価できる。
- (2) コンクール等への出場は、目標設定・成果検証・他者評価を通じて学びを深化させる有効な機会である。表彰や大会参加の実績は、生徒の自己肯定感と学習意欲の向上に寄与していると思われる。授業面では、少人数の特性を生かしたきめ細かな指導が行われ、生徒の主体的学習が促進されている。
- (3) 教職員が生徒一人ひとりに丁寧に関わる姿勢は顕著な強みである。一方、校内の問題行動の増加は看過し得ない課題であり、人権教育の一層の推進と日々の振り返りを通じた内省支援の強化が必要である。
- (4) 地理的不利の下でも、体験入学、説明会、パンフレット、ホームページ等を通じた広報が積極的に展開され、ホームページアクセス数の伸長として成果が可視化されていると思う。
- (5) 小中学校との交流は効果的に実施され、分校の魅力と地域との結びつきが十分に伝達されていると思う。地域と一体となった活動は定着し、農業クラブやボランティア活動を通じて地域からの信頼を獲得している。また地域資源を活用した学習は、分校の特色として高く評価できる。
- (6) 林業・山林資源に関わる教育の社会的意義は大きく、将来の地域・社会を支える人材育成に資するものがあり、分校は地域に不可欠な教育拠点である。
- (7) 教職員の業務負担の大きさがある中でも、働き方改革が着実に前進している点は高く評価できる。一方、負担軽減と燃え尽き防止の観点から、外部人材の活用および保護者との協働を一層推進する必要があると感じる。
- (8) 対外広報は概ね有効に機能し、ホームページ等の閲覧状況から一定の成果が確認できる。一方、保護者向けの情報共有については改善の余地がある。外部で参加するイベ

ントなど、適切な発信が保護者の理解と支援を喚起し、生徒の励みに一層つながると思う。

5 総合評価

- (1) 教職員相互の共通理解による教育活動の活性化を推進
- ア ICTを活用した授業が定着し、職員間の情報共有も活発で、生徒の家庭学習や学習意欲の向上につながっている。学校設定科目の見直しも継続し、学習内容の改善に努めている。さらに、ICT活用を一層促進し、指導力向上と教育活動の充実を図っている。
 - イ 興味・関心を高める学習内容や基礎学力定着の取組により学習に意欲的に取り組む生徒が増加した。これらの改善は学習姿勢の向上につながり、関係者からも高く評価されている。
 - ウ 現場実習、校外研修、先進地視察など専門教育に対する評価は高く、生徒の実践的な学びが着実に深まっている。さらに、ドローンやIoT機器の活用などデジタル技術を取り入れた実習を進めており、技術革新に対応した学習内容への更新にも継続して取り組んでいる。
- (2) 生徒にとって、安全で安心できる環境の学校づくり
- ア いじめ案件が多発し、人間関係づくりの強化が求められている。心のきずなを育む取組や学校行事を通じたコミュニケーション指導を推進し、生徒間の良好な関係形成を図っていく。また、早期発見・早期解決に努めるとともに、関係職員間の情報共有を徹底し、生徒の小さな変化を見逃さない支援体制を強化していく。
 - イ 生徒が悩みを相談しやすい環境を整え、担任以外にも複数の教職員が対応できる体制を確保していく。また、日常生活指導や学校行事を通して、コミュニケーションの習得や対人面の支援を行い、安全で安心して過ごせる学校生活環境の維持に努めていく。
- (3) 八農（分校）教育全域を通してのキャリア教育・人権教育の推進と進路実現
- ア 外部機関の協力による企業見学や体験活動を系統的に行い、生徒の職業観・勤労観の育成に効果が見られた。また、ハローワークと連携し、生徒の実態に応じた個別指導や支援、進学・就職先への移行支援も実施できた。
 - イ インターンシップでは、生徒の進路希望に応じた事業所で実習を行い、実体験を通して職業適性の理解が進むとともに、進路意識の向上が見られた。この取組により、進路希望につながる生徒数も昨年度を上回り、キャリア形成支援の成果が表れた。
 - ウ 人権教育主任を中心に、年間を通して人権に関する職員研修を計画的に実施し、職員が学び続ける機会を確保できた。アンケート評価も高く、意識向上に効果が見られた。次年度も研修を充実させ、人権意識をさらに高める環境づくりを進めていく。
 - エ 人権教育LHRを通して人権意識の育成に取り組んだ。生徒・職員のアンケートでも高い評価が得られ、取組成果を確認できた。今後も取組内容を見直し改善を重ね、PDCAサイクルを確立させながら、より効果的な人権教育を進めていく。
- (4) 特別な支援を要する生徒への全教職員共通理解による取組の推進
- ア 専門用語研修や巡回指導を通して校内研修を充実させた。また、移行支援や意思確認は学年と連携して円滑に進め、生徒情報の共有も継続して強化してきた。今後も研修の質を高め、進路指導と連携したケース会議をさらに充実させることで、支援体制の一層の向上を図っていく。
 - イ SC・SSW・外部機関と連携し、職員の支援力と校内体制を強化した。支援員配置により教育環境も維持できた。今後はケース会議の改善と情報共有を進め、保護者の信頼向上に努めていく。
- (5) 地域の資源や人材を最大限に活用した教育活動と教職員研修の推進
- ア 地域行事やボランティア、部活動などを通して交流が深まり、アンケートでも高評価を得た。報道露出や地域イベント参加、「ジビエ料理甲子園」など地域特産を生かした活動も交流深化に寄与した。
 - イ 洋菓子・郷土料理の講習や林業機械、チェーンソー研修など、地域人材を活用した体験活動を通して、生徒の技術習得と地域理解を深めた。今後は地域資源を生かした学習機会を拡充し、教職員研修とも連動させていく。
- (6) リスク管理と危機管理の徹底と諸課題の解決の推移
- ア 泉支所と協力体制を確認し、緊急時用品の点検も年2回実施した。各学期に地震・土砂災害・火災の避難訓練を行い、立地や過去の災害を踏まえた防災教育とマニュアル・避難経路の確認を継続し、防災意識の向上を図った。

イ 専門教育や部活動を通して自転車乗車指導とヘルメット着用を徹底した。生活指導と併せて交通安全意識を高めた。今後も関係機関と連携し、交通安全指導の充実と危機管理の強化を進めていく。

(7) 継続的・効果的な情報発信と生徒募集の取組の推進

ア HPの毎日更新や中学校向け掲示資料の配付、支所だよりや顕彰看板など多様な方法で魅力発信を進めた。特にHPは高い閲覧数を記録し、学校への関心と認知度向上に大きく寄与した。

イ 全職員で中学校42校を定期訪問し、直接説明する機会を増やしたことで、顔の見える関係づくりが進み、学校説明の依頼も増加した。今後も継続訪問により理解促進と募集活動を強化していく。

ウ 地元小中学校との交流学習や2回の体験入学を実施し、本校の専門的な学習内容を紹介した。参加者からは高い評価が得られたが、生徒募集への効果はまだ十分でなく今後はより効果的な取組や新たな方策の検討が必要である。

(8) 本校と分校の人的・物的資源の有効活用による教育活動の充実

ア 本校と分校で合同の生徒引率や田植え実習などの専門学習に取り組み、双方の強みを補完しながら教育活動を進めた。また、職員の合同研修会も開催し、人的・物的資源を共有する共同活動を本格的に開始することができた。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 継続的・効果的な情報発信と生徒募集の取組の推進

ア 次年度も体験入学を2回実施し、専門教科の魅力や学習内容をより分かりやすく伝える工夫を行う。中学生と保護者の理解を深め、生徒募集につながる体験機会として内容の質を高めていく。

イ 全職員による定期訪問を継続し、中学校職員へ本校の学習内容や魅力を丁寧に発信する。顔の見える関係を深め、地域から信頼される学校づくりを進めるとともに、生徒募集の基盤を強化する。

ウ 地元小中学校との交流学習や地域イベント参加を広げ、学校の魅力を直接伝える機会を増やす。報道各社への取材依頼も継続し、地域に誇れる学校としての認知向上と関心の喚起を図る。

エ 新年度パンフは早期に作成し、説明会で効果的に活用する。保護者も学校生活の良さを広げる役割を担えるよう、共有しやすい情報や子どもの成長が実感できる内容を発信していく。

(2) 特別な支援を要する生徒への全教職員共通理解による取組の推進

ア 特別な支援を要する生徒の情報を早期に収集し、中学校との引継ぎをより円滑に行う体制を整える。移行支援シートの精度を高め、必要な支援を計画的に準備できる仕組みを確立する。

イ 合理的配慮の内容を全教職員で共有し、入学から卒業後の移行支援まで一貫したサポートを強化する。生徒が将来像を描けるよう、自己理解を深める活動を継続し、職業意識の育成につなげていく。

ウ コーディネーターを中心に外部専門機関との連携を進め、全職員のスキルアップを図ることで支援体制の質を向上させていく。

エ 組織的に指導・支援できる体制づくりを深化させる。他者理解が苦手な生徒への支援を充実させ、適切なコミュニケーションを学ばせる指導を計画的に行っていく。

(3) 八農（分校）教育全域を通してのキャリア教育・人権教育の推進と進路実現

ア インターンシップと希望進路のマッチング精度を高めため、早期の希望調査や企業との事前打合せを丁寧に行い、生徒が進路選択に必要な情報を確実に得られるよう支援体制を整える。学びと進路の結び付きを強めることで進路実現を着実に支援していく。

イ 自己理解の取組を一層深化させ、一人一人が明確な将来像を描けるよう段階的な支援を行っていく。年間を通した計画的なキャリア教育と人権教育を推進し、自他を尊重しながら主体的に生き方を考える力の育成を目指す。

(4) 生徒にとって、安全で安心できる環境の学校づくり

ア 暴言等の指導が生徒に十分に伝わらなかった点を課題とし、行動変容につながる指導の強化、見直しを行っていく。いじめ認知0を目指し、継続的な面談や声掛けで早期発

- 見・早期解決を図り、SCやSSWと連携しながら支援体制を充実させる。
- イ 言葉遣いや相手への配慮に欠ける言動が増えている実態を踏まえ、クラスに加え教科横断的な指導を行う。特性をもつ生徒には個別支援を強化し、相談体制の充実と共通理解のもと生徒指導の質の向上を図る。
- ウ 年間計画に沿って防災避難訓練を実施し、生徒・職員の防災意識を高める。迅速な避難行動が取れるよう動線確認や役割分担を徹底するとともに、訓練ごとにQRコードで防災マニュアルを確認し、実効性ある安全体制を整えていく。

(5) 職員の働き方改革

- ア 時間外勤務は大幅に減少した一方、支援を要する生徒・保護者対応は増加している。次年度は、業務分担の平準化と効率化をさらに進め、全職員で相互扶助の体制を強化する。組織的に協力しながら、多忙感の軽減に努めていく。
- イ 定時退勤日の定着やICT・AIの活用が進み、業務効率化が成果を生んでいる。今後もデータの管理・活用を徹底し、各分掌の業務をマニュアル化することで新規担当者の負担軽減と、継続性ある分掌運営を目指していく。
- ウ 年休・特別休暇の取得が進み、働きやすい環境が確実に広がっている。さらに職員一人一人がワークライフバランスを意識し、時間の使い方や業務の優先順位の見直しを進めることで、心身の健康維持と学校全体の生産性向上につなげていく。